

再び核の被害を生まないために

原爆の日に訴えます

ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ

こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ

にんげんのにんげんのよのあるかぎり

くずれぬへいわを

へいわをかえせ

66年前広島に落とされた原子爆弾で被爆した峠三吉の詩です。

日本が起こした戦争で、アジアでは2000万人の人々が犠牲になりました。

広島、長崎では原子爆弾で、日本全国にも空襲による数百万人の犠牲者を出しました。敗戦も明らかになり戦争の終末を迎えようとする最中に、前線に立たされた沖縄の人々は多くの犠牲者を出しました。

峠三吉の叫びは、犠牲者の家族ばかりでなく生き残った全ての者の叫びではなかったでしょうか。

二度と戦争はしないと国内外に誓って生まれたのが「戦争放棄」の平和憲法九条です。平和な日常生活を、しっかりと支えて来た憲法です。

しかし、今、この普通の生活が危ないのです。憲法九条の改悪の為の法律の整備がどんどん進められているからです。

有事法制 国民投票法など、もしも、深く考えずに改憲に賛成してしまえば、国民の権利の宣言としての憲法を再び政府に手渡すことになり、民主主義の根幹を揺るがすことになります。

改憲は戦争放棄を改めて、「戦争が出来る国」、「戦争に参加出来る国」にするのが目的です。

66年前、戦争は生きる場の破壊と死、犠牲を限りなく残しました。その事実によって武力では平和は得られないと学んだ筈です。

ナチスの苦い経験からドイツのヴァイツェッカー大統領の1985年の有名な演説があります。

「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」この言葉は、私たち日本人も、いつも心に刻み、思い起こすべき言葉だと思います。

3・11東日本大震災の犠牲者と、今なお苦難の生活を強いられている方々の悲しみと苦しみの日々を思い、無力さをかみしめています。

その苦しみは想像の範囲におさまるものではないと思います。

更に、日本中が放射能の危険にさらされ続けて生きていかねばならない事を知らされました。国民の大多数は原子力平和利用をうのみにして、安全神話に流されてきたことを悔やんでいるのではないのでしょうか。

しかし、政府と電力会社は、過去と未来に対して責任をはたすために、みんなの納得のいく説明を今だに行わず、事故の実態も明らかにしていません。

そんな最中、国の平和と安全を口実にかかげて、改憲のため「憲法審査会規定」が成立させられました。武力では平和も危機管理も出来ません。再び悔やむことの無い様に、今ある平和憲法を手放さず、力強く掲げて、活かしていこうではありませんか。

九条の会・流山

■連絡先 石林紀四郎 (04-7154-7511) 三原真子 (04-7152-6559)
TEL/FAX 山田洋子 (04-7144-3993)

本のご紹介

「九条の会」憲法セミナー⑩ 核のない平和な世界と憲法九条

平岡敬／高遠菜穂子



<目次>

◇核廃絶と創り出す平和 平岡敬

政権交代とマスコミ / 偏狭な国家主義とマスコミ / 価値観を共有する同盟国であるなら / 日米安保条約と憲法九条 / 迷走する民主党 / 新安保懇報告と防衛大綱 / 日本の安全保障に絡む利権とアメリカの要求 / 我われの怒りの声は / 世界の核の状況—オバマ大統領のプラハ宣言 / 被爆国の権利と義務 / 平和のための戦争で殺される人びと / 軍産複合体と政治 / 「平和」を問い直す / 人間の尊厳と平等 / マスコミと教育 / 日常の暮らしのなかで平和を築く

◇命に国境はない—イラク戦争とは何だったのか？ 高遠菜穂子

はじめに / イラクの地理と宗教 / コインの表裏 / アブグレイブ—戦争犯罪と冬の兵士たち / ラマディー—赤ちゃんの墓標 / イラク戦争の崩れた大義 / たくさんのイラク人が海外旅行を楽しんでいますよ / 大規模戦闘終結宣言とイラク初入国 / 市民の怒り—遅かれ早かれ、蹴り出してやる / 三つ巴の戦い / 報道の見えない壁 / 安全管理と米軍 / 自衛隊への注目と誤解 / 二回のファルージャ総攻撃 / 臭いが染み付いてとれない / 「戦争放棄はしても、戦争サポートはいいのか」

◇質問に答えて

(10冊以上お求めの場合は250円)、送料別途

申込みは、九条の会事務局

FAX 03-3221-5076 メール mail@9jounokai.jp

「人間と環境への低レベル放射能の脅威 —福島原発放射能汚染を考えるために」

帯のことば—いま、福島原発事故の放射能汚染の深刻さを見定めるために
そして、未来を生きる子供たちのために

ラルフ・グロイブ、アーネスト・スターングラス著
肥田舜太郎・竹野内真理訳

あけび書房 (<http://www.akebi.co.jp/>) 03-3234-2571 akebi@s.email.ne.jp 3990円 337頁



低線量被曝問題をつぶさに扱った本です。

共訳者は、広島原爆で被曝した医師である肥田舜太郎さんです。長年被爆者の治療を行うとともに、国際的な反核活動や低線量内部被曝問題にも数々の翻訳を通して従事されてきた方です。

低レベルでも恐ろしい放射能による障害を国内外の研究論文も引用しながら、ICRP（国際放射線防護委員会）を含む、今までの国際機関や政府による放射線防護基準がいかに甘いものであるかが科学的に詳述されています。